



「富士市地球温暖化対策実行計画(事務事業編第二期計画)」

「富士市グリーン購入基本方針」

平成29年度の取り組み結果

市役所は、市内の事業所の一つとして、職員一丸となって環境に優しい行動に努めています。

平成28年度から新たに「富士市地球温暖化対策実行計画(事務事業編第二期計画)」に基づき取り組みを進めています。

平成29年度の結果をまとめましたので報告します。

富士市地球温暖化対策実行計画 (事務事業編第一期計画)

この計画では、市役所の事務事業において発生する温室効果ガス排出量を、下表のとおり5つの区分に分け、基準年度である平成26年度に対し、2020年度までに、全体で16.4%削減することを目標に掲げています。平成29年度の総排出量は、6万3985.4 t-CO₂で、平成26年度から4.8%の削減となりました。職員の省エネ行動の推進や、設備を省エネタイプに更新するなど、今後も引き続き電気・ガスなどの使用量の削減に努めるとともに、電力の契約においては、排出係数に配慮した契約を推進していきます。



区分別温室効果ガス排出量

区分	排出量 (t-CO ₂)		増減量 (t-CO ₂)	増減率 (%)	
	H26 (基準年度)	H29		H29	H32 目標値
①市役所独自に削減できる排出量	38,280.6	34,889.2	-3,391.4	-8.9	-17.5
②一般廃棄物焼却に伴う排出量	26,740.5	26,858.9	118.4	0.4	-16.2
③下水・し尿処理に伴う排出量	1,405.3	1,460.1	54.8	3.9	4.2
④車両の使用に伴う排出量	682.7	723.6	40.9	6.0	-0.1
⑤笑気ガスの使用に伴う排出量	93.0	53.6	-39.4	-42.3	-42.3
合計	67,202.1	63,985.4	-3,216.7	-4.8	-16.4

※四捨五入しているため、数値が一致しない場合があります。

〈主な増減要因〉

定着した節電による電気使用量の減少及び電力会社の排出係数の減少により、区分①における温室効果ガスの排出量が減少しました。

一方、一般廃棄物中の廃プラスチック等の割合が増加したため、区分②における排出量が増加しました。

※1kWhの電力使用で排出される二酸化炭素の量を示す数値。この数値が大きくなると、同じ量の電気を使用しても、より多くの二酸化炭素が排出されます。なお、この数値は電力会社ごとに異なります。

富士市グリーン購入基本方針 平成29年度購入結果

グリーン購入とは、消耗品などを購入する際に、できるだけ環境負荷が小さい製品を優先して購入することです。

平成29年度の主要項目のグリーン購入率は、オフィス機器等が99.9%、文具類が98.4%、紙類が88.2%でした。また、一般公用車は、低公害車を8台導入し、100%でした。

今後も循環型社会の構築に資するため、グリーン購入を推進していきます。